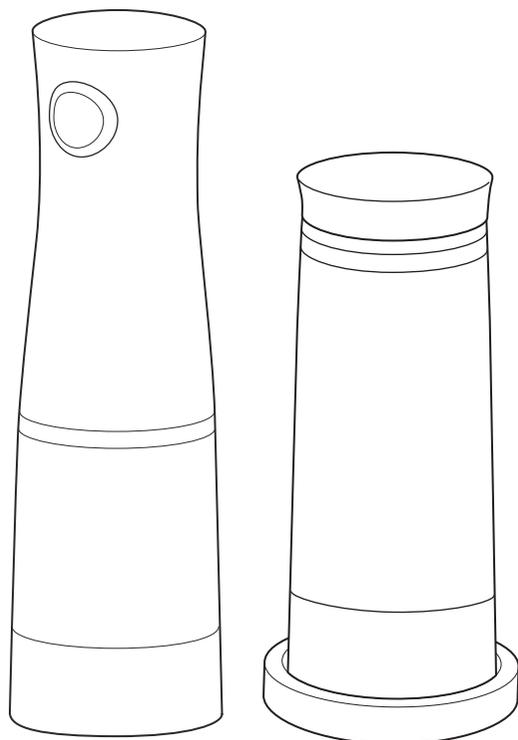


電動コーヒーマルかき氷器 DHCI-B3

取扱説明書・保証書

このたびは、弊社製品をお買い上げいただきまして、誠にありがとうございます。正しくご使用いただくために必ずこの取扱説明書をよくお読みください。なお、お読みになられたあともいつでも見られるように大切に保存してください。



も く じ

安全上のご注意	P. 1~2
各部の名称とはたらき	P. 3~4
正しい使いかた	
かき氷器	P. 5~9
コーヒーマル	P. 10~12
お手入れと保存	P. 13~14
修理・サービスを依頼する前に	P. 15~16
アフターサービスについて	裏表紙
保証書	裏表紙


使いかたを動画で
CHECK



仕 様

品 名	電動コーヒーマルかき氷器
型 番	DHCI-B3
定格電圧	AC100V
定格周波数	50/60Hz
定格消費電力	11 W (かき氷器) / 17 W (コーヒーマル)
定格時間	2分 (かき氷器) / 4分 (コーヒーマル)
安全装置	感知スイッチ
製品サイズ	(約) 直径 9.0 × 高さ 35.5 cm (かき氷器 スタンド含まず) (約) 直径 8.5 × 高さ 28.5 cm (コーヒーマル)
質 量	(約) 0.75 kg (かき氷器 スタンド含まず)、(約) 0.65 kg (コーヒーマル)
コードの長さ	(約) 1.3 m
付 属 品	取扱説明書・保証書×1、レシピ×1、ブラシ×1、スタンド×1

- 仕様などは改善・改良のため、予告なく変更することがあります。
- この製品を使用できるのは日本国内のみで、海外では使用できません。
(This unit can not be used in foreign countries as designed for Japan only.)

安全上のご注意

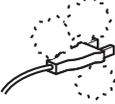
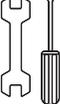
- ご使用になる前に、この「安全上のご注意」をよくお読みのうえ、正しくお使いください。
- ここに示した注意事項は安全に関する重大な内容を記載していますので、必ず守ってください。
- お読みになったあとは、お使いになるかたがいつでも見られるところに、必ず保存してください。

 警告	誤った取扱をすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示します。
 注意	誤った取扱をすると、人が傷害を負う可能性及び物的損害の発生が想定される内容を示します。 (物的損害とは、家屋・家財・家畜・ペットなどにかかわる拡大損害を示します。)

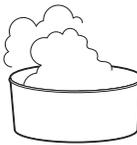
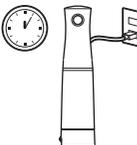
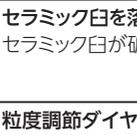
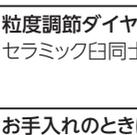
図記号の意味と例

	⊘は、「してはいけないこと」を意味しています。具体的な禁止内容は、⊘の中や近くに絵や文章で示しています。(左図の場合は、「分解禁止」を示します。)
	●は「必ずすること」を意味しています。具体的な強制内容は、●の中や近くに絵や文章で示しています。(左図の場合は、「電源プラグをコンセントから抜くこと」を示します。)

警告

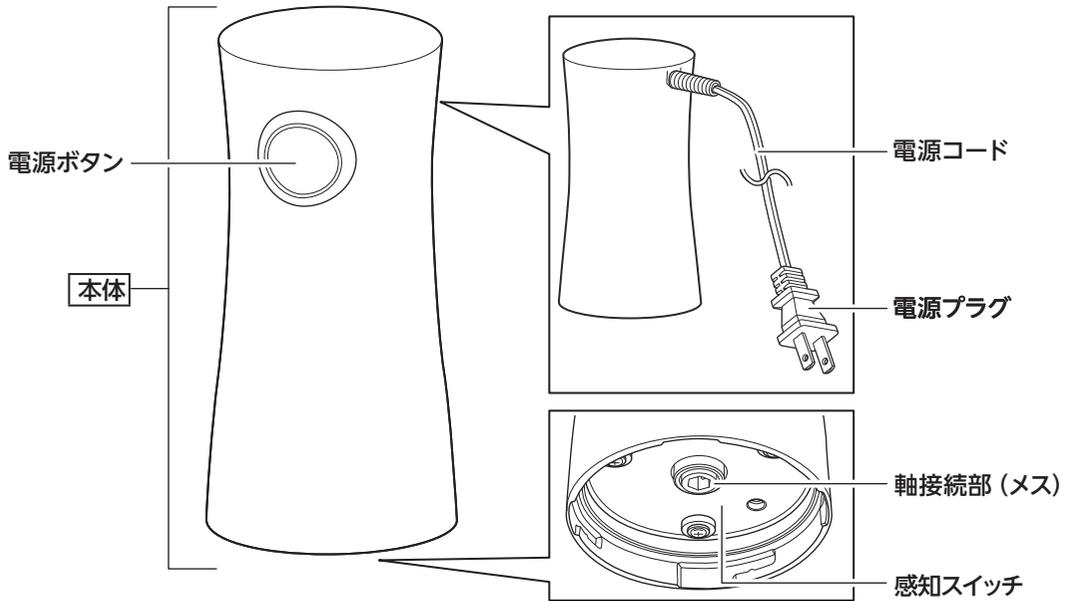
	 交流100V以外で使わない。 感電・けが・ショート・故障・破損の原因になります。		 電源プラグの刃及び刃の取り付け面にホコリが付着している場合はふきとる。 ホコリが付着したまま電源プラグを差し込むと、ショート・火災の原因になります。
	 電源コードを傷つけたり、破損したり、加工したり、無理に曲げたり、引っ張ったり、ねじったり、たばねたり、重いものをのせたり、挟み込んだりしない。 電源コードが破損し、火災・感電の原因になります。		 電源プラグを抜くときは電源コードを持たずに必ず電源プラグを持って引き抜く。 感電・ショートの原因になります。
	 電源コードや電源プラグが傷んだり、コンセントの差し込みがゆるいときは使用しない。 感電・ショート・発火の原因になります。		 プラグを抜く 使用後は電源を切り、電源プラグをコンセントから抜く。 火災・故障の原因になります。
	 乳幼児だけで使わせたり、手の届くところでは使用しない。 けが・感電の原因になります。		 プラグを抜く 製品の組み立てや取りはずし、お手入れの際は、安全のため電源プラグをコンセントから抜く。 感電・火災・けがの原因になります。
	本体のすき間にピンや針金などの金属物、異物を入れない。 感電・けがの原因になります。		 分解しない。また、修理技術者以外の人は修理しない。 火災・感電・けがの原因になります。修理は販売店にご相談ください。
	雷が鳴りだしたら、電源プラグにふれない。 感電の原因になります。		 めれた手で、電源プラグを抜き差ししない。 感電の原因になります。
	 異常時(こげ臭い、発煙など)は、電源プラグをコンセントから抜き、使用を停止する。 火災・感電の原因になります。		 本体を水につけたり、水をかけたりしてめらさない。 ショート・感電の原因になります。
	 電源プラグはコンセントの奥までしっかり差し込む。 感電・ショート・発火の原因になります。		

⚠ 注意

 禁止	業務用として使用しない。調理目的以外の使いかたをしない。 家庭用として設計されているため、故障の原因になります。	 禁止	 40℃以上のお湯で洗わない。 変形・変色の原因になります。 本体は洗えません。
 禁止	変形や破損など異常があるときは使用しない。 感電の原因になります。	 禁止	 刃は鋭利なので、直接手をふれない。 けがの原因になります。
 禁止	タコ足配線はしない。 火災の原因になります。	 禁止	 連続して氷を削る場合やコーヒー豆を挽く場合は、必ず30秒以上時間をあける。 モーター故障の原因になります。
 禁止	次のような場所では使用しない。 ●水や油のかかりやすいところ。 ●湿気の多いところ。 ●火気の近く。 ●直接日光が長時間当たるところ。 ショート・感電のおそれ、変形・故障の原因になります。	 指示	 コーヒーミルではコーヒー豆以外のものは入れない。 けが・故障の原因になります。焙煎したコーヒー豆以外入れないでください。
 禁止	テーブルの端などに置かない。 落下して、故障やけがをする原因になります。	 禁止	 コーヒー豆を大量に入れない。 故障の原因になります。
 禁止	テーブルや机以外の場所では使用しない。 電源コードが破損し、火災・感電の原因になります。	 禁止	 セラミック臼を落下させたり、ぶつけたりしない。 セラミック臼が破損し、挽けなくなる原因になります。
 禁止	 落としたり、製品に強い衝撃を与えない。 感電・けが・故障・破損の原因になります。	 禁止	 粒度調節ダイヤルを時計回りに回しすぎない。 セラミック臼同士が接触し故障の原因になります。
 禁止	 氷を入れた状態で、本体を逆さまに持ったり、置いたりしない。 故障や感電の原因になります。	 禁止	お手入れのときは、シンナー・ベンジン・アルコール・磨き粉・金属たわし・住宅用洗剤などを使わない。 変色・変形の原因になります。
 禁止	 かき氷器では氷以外のものは入れない。 けが・故障の原因になります。	 禁止	食器洗浄機・食器乾燥機を使用しない。 変形・変色の原因になります。
 禁止	 使用後は軸接続部にさわらない。 熱くなっている場合があり、やけどの原因になります。	 禁止	
 禁止	 スパイクにさわらない。 けがの原因になります。		

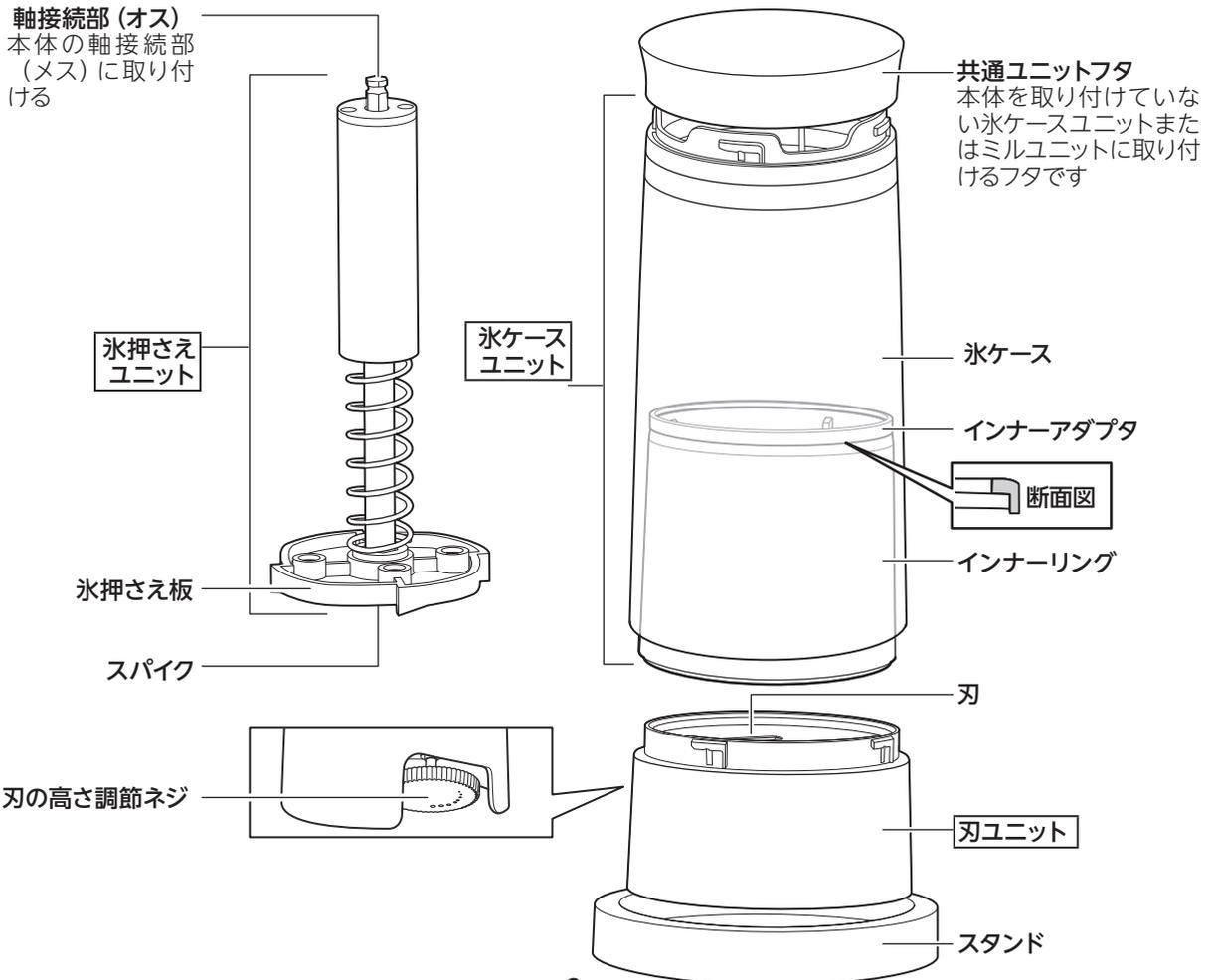
各部の名称とはたらき

本体

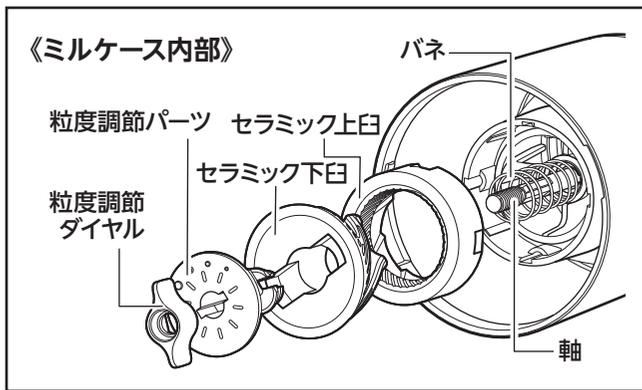
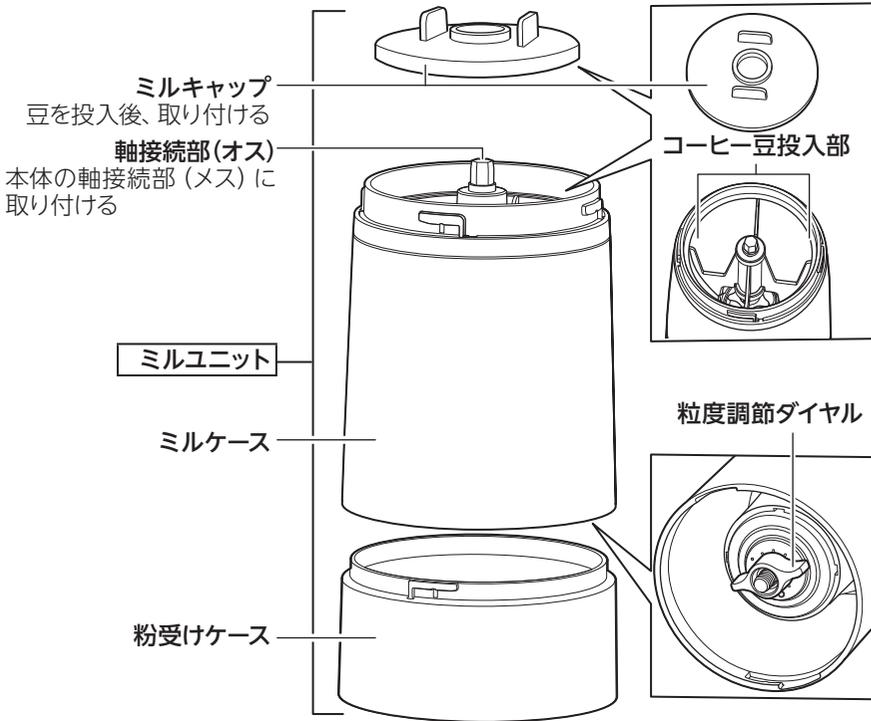


かき氷器

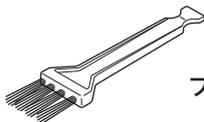
軸接続部 (オス)
本体の軸接続部
(メス) に取り付
ける



コーヒーミル



付属品



ブラシ

レシピ

取扱説明書・保証書

正しい使いかた

かき氷器

使用前の準備

1. 本体より下の部分を十分に洗って乾かす

「お手入れと保存」を参考に分解して十分に水洗いして十分に乾かします。

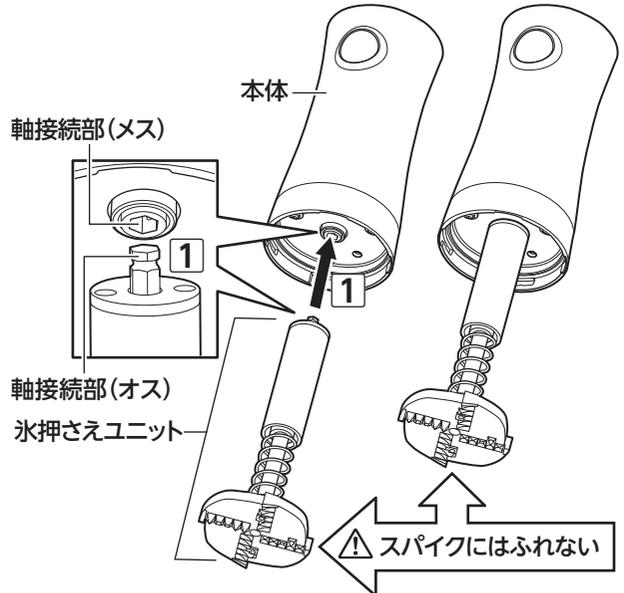


警告

本体は水洗いしない、水につけない。
感電・火災・故障の原因になります。

2. 本体の軸接続部(メス)に、氷押さえユニットを取り付ける①

軸接続部(オス)の形状を確認し、軸接続部(メス)に取り付けます。カチッとした手応えがあり、容易に氷押さえユニットがはずれなくなります。



3. 氷ケース内にインナーアダプタを取り付け②、インナーリングを入れる③

氷ケースの下方向から、インナーアダプタの形状を確認し、インナーアダプタを取り付けます。その上からインナーリングを取り付けます。

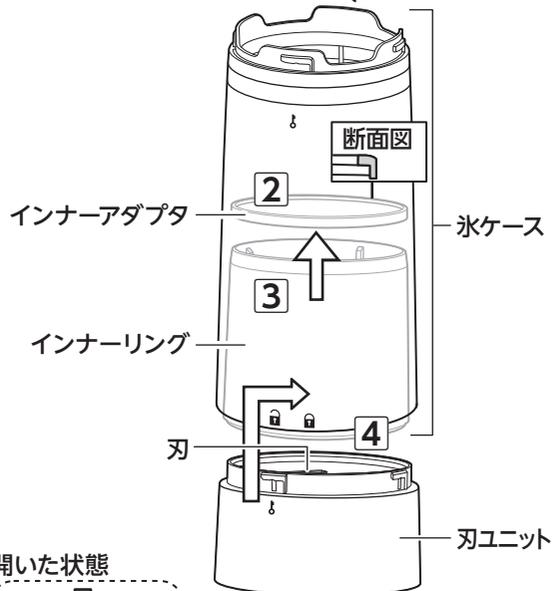
4. インナーリングを入れた氷ケースに、刃ユニットを取り付ける④

氷ケースに刃ユニットをはめ込み、氷ケースを左(反時計方向)に回して固定させてください。



注意

刃やスパイクにはふれない。
鋭利なため、けがの原因になります。

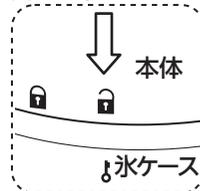


5. 本体に氷ケースを取り付ける

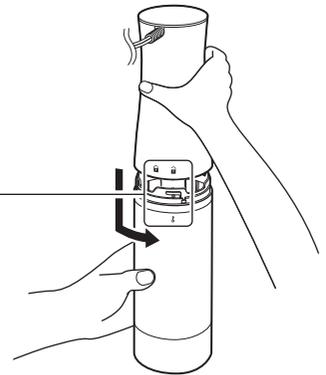
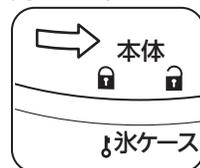
- 氷ケースが水平なテーブルなどの上にしっかりとのっていることを確認してください。
- 図のように氷ケースを握り、本体を上から強く押し込みながら、本体の🔒印を氷ケースの🔑印に合わせ、反時計回りへ回し🔒印の位置までカチッと音がするまで回してロックしてください。

※ 本体を氷ケースに取り付ける際は、インナーリング内部のリブに引っかからないよう注意してください。

開いた状態



閉まった状態



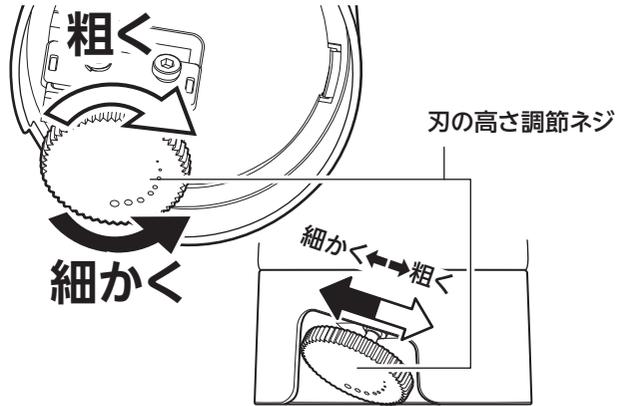
氷を削る

⚠注意

- テーブルや机以外の場所で使用しない。
- 乳幼児だけで使わせたり、手の届くところで使用しない。
- 本体に氷ケースを取り付けるまで、電源プラグをコンセントに差し込まない。

1. 刃の高さ調節ネジを回して、最も細かい設定にする

刃ユニットにある刃の高さ調節ネジを反時計方向に回して、最も細かい設定にしておいてください。



⚠注意

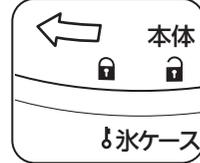
刃やスパイクにはふれない。
鋭利なため、けがの原因になります。

2. 本体から氷ケースをはずす

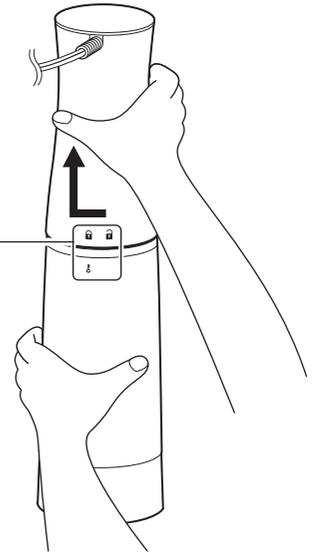
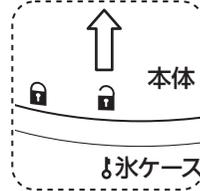
水平なテーブルなどの上に置きます。片手で氷ケースをしっかりと押さえながら、もう一方の手で本体を時計回りへ回し、本体の🔒印を氷ケースの🔓印に合わせて、本体を引き上げて氷ケースをはずしてください。

※ けがをしないように、スパイクには十分注意してください。

閉まった状態



開いた状態

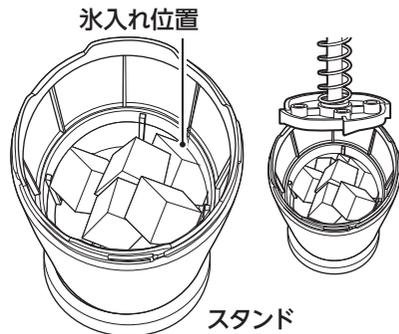


3. スタンドの上に氷ケースを置き、氷ケースに氷を入れる

氷（市販の製氷皿で作る氷もしくは自動製氷機能付冷蔵庫で作った氷）をインナーリングの氷入れ位置（インナーリングの上から1.5cm下）を超えないように入れてください。

⚠注意

- 必ず氷ケース内で表面を平らにしてから本体を取り付ける。
本体がしまらない場合があります。
- スーパー・コンビニなどで売っているかたい氷は使用しない。
故障の原因になります。
- 本体を逆さまにしない。
本体内部に水が入り、故障の原因になります。
- アルコールを入れた氷は使用しない。



正しい使いかた (つづき)

かき氷器 (つづき)

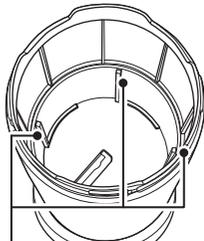
4. 本体に氷ケースを取り付ける

氷ケースが水平なテーブルなどの上をしっかりとのっていることを確認してください。

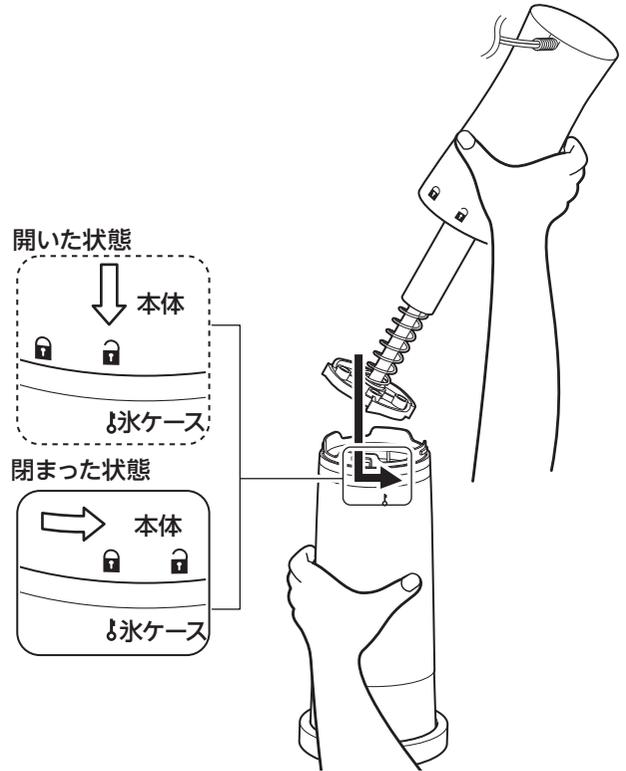
- 図のように氷ケースを握り、本体を上から強く押し込みながら、本体の🔒印を氷ケースの🔑印に合わせ、反時計回りへ回し🔒印の位置までカチッと音がするまで回してロックしてください。

※ 氷が氷入れ位置を超えて入っている場合や斜めになっている場合はロックはできません。

※ 本体を氷ケースに取り付ける際は、インナーリング内部のリブに引っかからないよう注意してください。



インナーリング内部のリブ

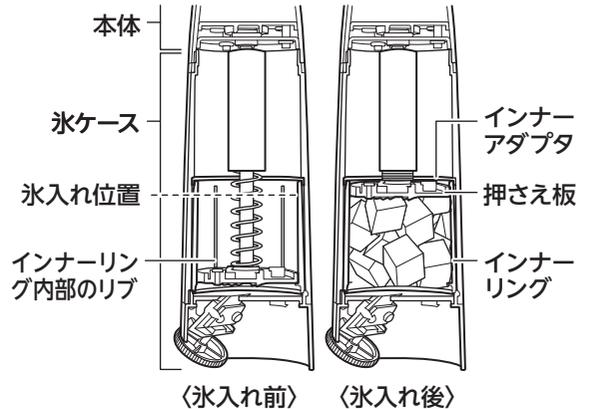


5. 電源プラグをコンセントに差し込む



注意

- ぬれた手で電源プラグを持たない。危険ですので、電源プラグは必ず乾いた手で持ってください。
- コンセントから離れている場合は延長コードを使用する。タコ足配線にならないようご注意ください。



6. 電源ボタンを押して氷を削る

- 本体と氷ケースを両手でしっかりと持ち、器の上に持っていき、電源ボタンを押してください。
 - 電源ボタンを押さないと作動しません。また、本体に氷ケースを取り付けていない状態では作動しません。
 - 電源ボタンから指を離すと停止します。
- ※ 氷がなくなっても自動で止まりませんので、電源ボタンから指を離して停止させてください。
- ※ アルコールを含んだ氷を削らないでください。
- ※ グラスなど口径の小さい器に氷を削るときは、ぬれても良い場所か、グラスの下にふきんなどを敷いて削ってください。
- ※ はじめの削り出しと氷の量が少なくなるとふわふわの削りかたができなくなります。刃の高さ調節ネジで調節するか氷を交換してください。



氷削り中に発生することがある現象

- 氷が引っかかりガタガタという大きな音がして止まることがあります。故障ではありません。
- 氷が少なくなり、刃に当たる面がなめらかになって削れる量が少なくなることがあります。

対処方法

どちらの現象も、電源ボタンを離して再度押してみてください。

それでも直らないときは、以下の方法を試してください。

- ① 本体から氷ケースをはずす。
- ② 氷ケースを振って氷を動かしたり、氷を1個減らしたりする。
- ③ 再度取り付けて電源ボタンを押す。

⚠ 注意

- 2分以上連続運転をしない。
- 連続運転をするときは、30秒以上時間をあける。
- 連続運転は6回までとし、そのあとは1時間以上の時間をあける。
連続運転を続けると、モーター故障の原因になります。

① 本体をはずす

② 氷ケースを振る



正しい使いかた (つづき)

かき氷器 (つづき)

できあがりの細かさ・粗さの調節

刃ユニットにある刃の高さ調節ネジを回転させて、細かさ・粗さを調節できます。

1. 刃の高さ調節ネジを右図のように下から見上げるように見て、反時計回りに最後まで回して「細かく」設定しておきます。
2. 氷を削りながら、刃の高さ調節ネジをゆっくりと時計回りに回して「粗く」してってください。
3. お好みの粗さで削れるようになったら、刃の高さ調節ネジを回すことをやめて、そのまま削ってください。

- ・ 氷が少なくなり、刃に当たる面がなめらかになって削れる量が少なくなったりしたときは再度少しずつ「粗く」の方向に調節してください。
- ・ 氷が引っかかりガタガタという大きな音がしたときは「細かく」の方向に調節してください。
- ・ 氷の状態により削り具合は変化しますので、必要に応じて氷を削りながら調節をしてください。一定の位置で削れない場合があります。

削るのを中断するときは、スタンドに立てておきます。

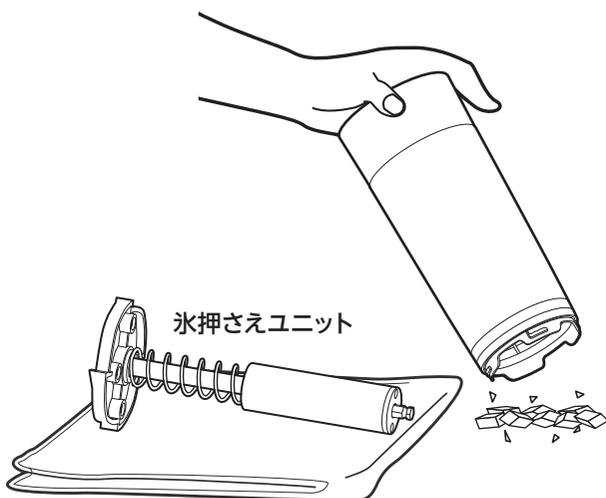
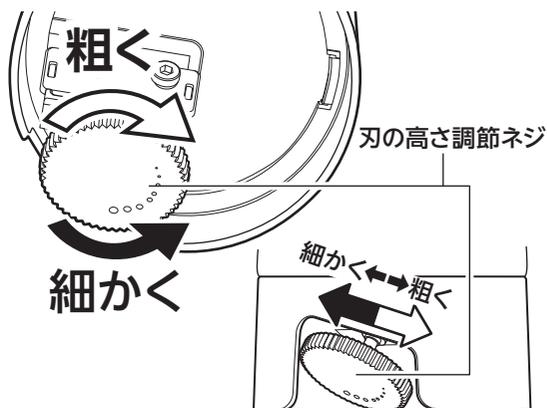
※ 放置時間が長いと氷が解けて、スタンドに水がたまりますのでご注意ください。

※ 調節ネジを強く回しすぎると、回らなくなることがあります。

7. 本体をはずし、氷ケースの氷を捨てる

※ 構造上、氷ケース内に氷が残りますが故障ではありません。

続けて氷を削るときは、氷ケース内に残っている氷は、必ず捨ててください。残ったまま新しい氷を入れると空回りして削れません。



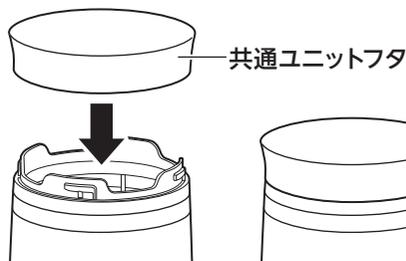
注意

氷押さえユニットは、引き抜くようにして取りはずす。回すと軸接続部(オス)が取れてしまう原因になります。



注意

- ・ 使用後は、電源プラグをコンセントから抜く。
- ・ 使用後は、本体に付着した水が垂れるため、ふきんなどの上において、水切りをする。
- ・ 絶対に本体を逆さまにしない。本体内部に水が入り故障の原因になります。
- ・ 連続して氷を削る場合は、必ず30秒以上時間をあける。
- ・ 使用後は軸接続部にさわらない。熱くなっている場合があり、やけどの原因になります。



8. 使用後はお手入れをする

お手入れしたあと、かき氷器に本体を取り付けておかない場合は、共通ユニットフタを取り付けてください。

コーヒーミル

使用前の準備

1. 本体より下の部分を十分に洗って乾かす

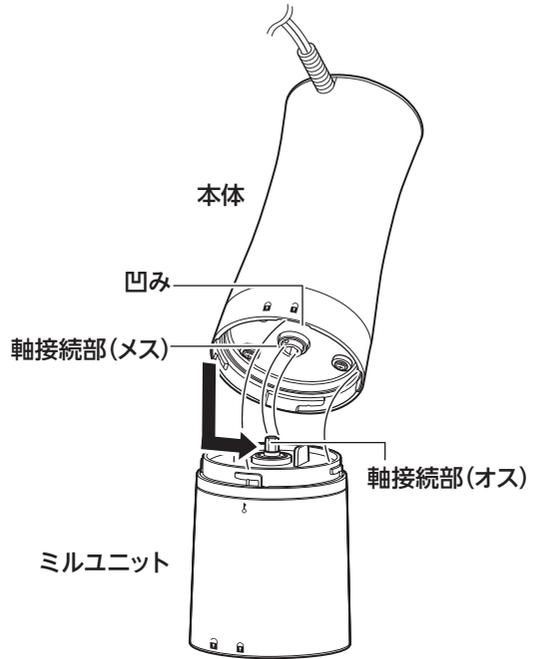
「お手入れと保存」を参考に分解して十分に水洗いして十分に乾かします。

警告	本体は水洗いしない、水につけない。 感電・火災・故障の原因になります。
-----------	--

2. 本体をミルユニットを取り付ける

ミルユニットが水平なテーブルなどの上につきかきとれていることを確認してください。

- 本体の軸接続部(メス)とミルユニットの軸接続部(オス)を組み合わせるように取り付けます。
- 本体の  印をミルユニットの  印に合わせて取り付け、本体を左(反時計方向)に回し  印の上に  印の位置まで回してロックしてください。



粒度(挽き具合)の設定

コーヒー豆の粒度を設定します。

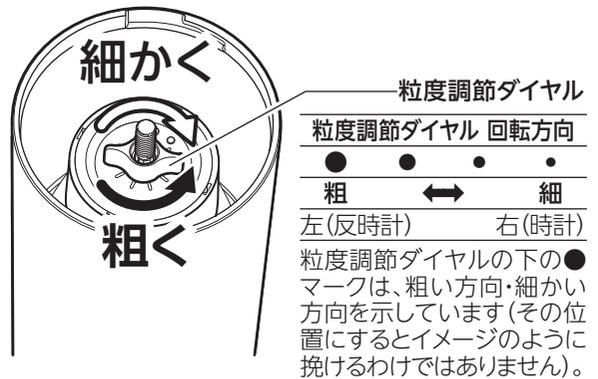
3. 粒度調節ダイヤルを右(時計方向)に軽くしまったところまで回したうえで左(反時計方向)にカチカチ回して好みの粒度に設定する

軸が空回りするので、ミルケースを本体に取り付けた状態で粒度(挽き具合)の設定をしてください。

軽くしまったところが粒度調節の基準となります(臼同士が接触した状態ですのでそのまま使用しないでください。故障の原因になります)。左(反時計方向)に回すほど、臼同士の間隔が開くので粗く挽くことができます。

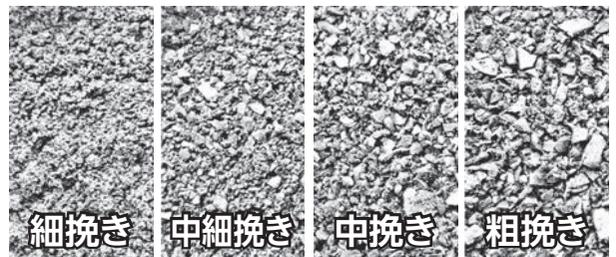
何度か試してみて、回転数でお好みの粒度にしてください。

※ 使用回数やコーヒー豆のかたさにより、臼が摩耗し状態が変化し、挽き具合が変わることがありますので粒度(挽き具合)を確認してください。



細方向に締めすぎて臼が接触状態で利用しないでください。破損・故障の原因になります。

注意	<p>粒度調節ダイヤルを右(時計方向)に回しすぎない。 臼同士が接触し、破損・故障の原因になります。</p> <ul style="list-style-type: none"> • しまったところで挽かない。故障の原因になります。必ずゆるめてから使用してください。 • 必ず臼同士のすき間がしっかりと見えるまで回してから使用する。故障の原因になります。
-----------	---



苦味が強く濃い味わい 苦味と酸味のバランスが良い 酸味がありスッキリな味 苦味が少なく酸味が強いの



正しい使いかた (つづき)

コーヒーミル (つづき)

4. 粉受けケースを取り付ける

粒度設定を終えたあと、粉受けケースを取り付けてください。

- ミルケースの  印を粉受けケースの  印に合わせて取り付け、ミルケースを右 (時計方向) に回し  印の位置までカチッと音がするまで回してロックしてください。

コーヒー豆を挽く



粉受けケースを取り付けるまで、電源プラグをコンセントに差し込まない。

1. 本体をはずし、ミルユニットにコーヒー豆を入れ、ミルキャップを取り付ける

ミルユニット上部のコーヒー豆投入部からコーヒー豆を入れてください。

- コーヒー1杯は約10gです。豆の重さは種類や焙煎具合によって異なります。お好みに合わせて量を調節してください。

※ ミルユニットに入れることができるコーヒー豆の量は約30gまでです。豆の大きさなどによって減らしてください。

※ ミルケースには必ず粉受けケースを取り付けてから豆を入れてください。

コーヒー豆を入れたあと、ミルキャップを取り付けてください。



- ミルキャップを取り付けずに挽かない。本体に粉が入り、故障の原因になります。
- コーヒー豆の状態によっては挽くことができない場合があります。
- 焙煎したコーヒー豆以外を挽かない。コーヒー豆専用のミルです。
- コーヒー豆を大量に入れない。コーヒー豆を無理に押し込めない。コーヒー粉を入れない。故障の原因になります。

2. 本体をミルユニットに取り付ける

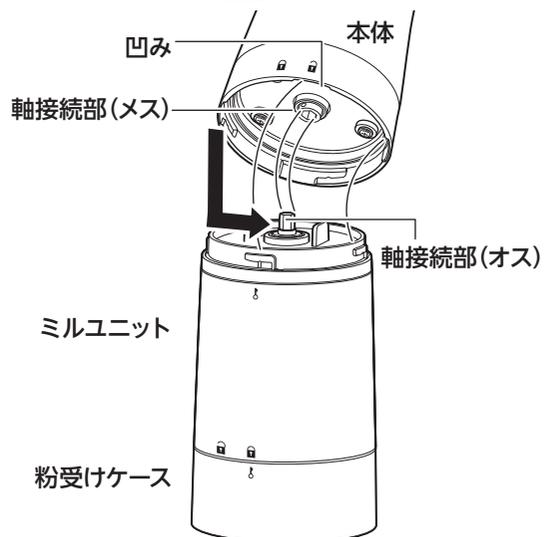
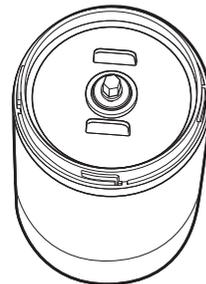
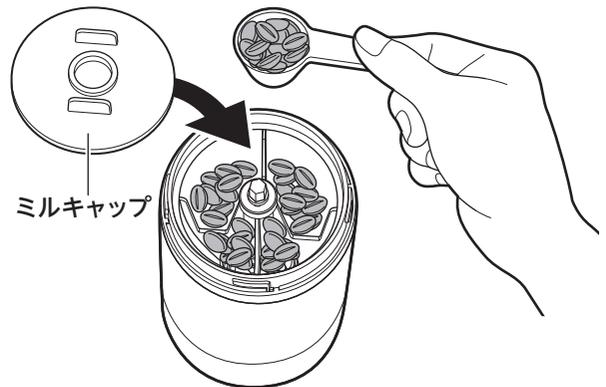
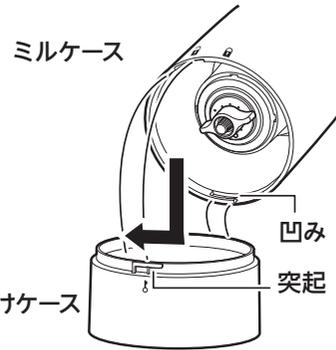
水平なテーブルなどの上をしっかりのっていることを確認してください。

※ 本体が取り付けられない場合は、コーヒー豆を減らしたり、上面を平らに整えてください。

3. 電源プラグをコンセントに差し込む



- ぬれた手で電源プラグを持たない。危険ですので、電源プラグは必ず乾いた手で持ってください。
- コンセントから離れている場合は延長コードを使用する。タコ足配線にならないようご注意ください。



4. 電源ボタンを押してコーヒー豆を挽く

ミルユニット（ミルキャップ・ミルケース・粉受けケース）が正しく取り付けられていることを確認してから、電源ボタンを押してください。

- 電源ボタンを押さないと作動しません。また、本体にミルユニットを取り付けていない状態では作動しません。
- 電源ボタンから指を離すと停止します。

※ コーヒー豆がなくなっても自動で止まりませんので、電源ボタンを離して停止させてください。

⚠️ 注意

- 使用後は、電源プラグをコンセントから抜く。
- 使用後は軸接続部にさわらない。熱くなっている場合があり、やけどの原因になります。
- 長期間使用すると、臼が摩耗して切れ味が落ちます。挽ける量が著しく少なくなったときは、臼の寿命と考えられます。

⚠️ 注意

- 4分以上連続運転をしない。挽ききれない場合は、量を減らしてください
- 連続運転をするときは、30秒以上時間をあける。
- 連続運転は6回までとし、そのあとは1時間以上の時間をあける。連続運転を続けると、モーター故障の原因になります。
- 異音がある場合、臼に異常がないか確認する。
停止させて電源プラグを抜き、本体からミルケースをはずして「お手入れと保存」にある分解方法を確認してください。

5. 粒度（挽き具合）を見て、お好みの粒度でなかったら、電源プラグをコンセントから抜き、再度「粒度の設定」をする

⚠️ 注意

コーヒー豆が入った状態で粒度の調節をする場合、本体を逆さまにしない。本体内部に入る可能性があり、故障の原因になります。下からのぞきこむようにして調節してください。

⚠️ 警告

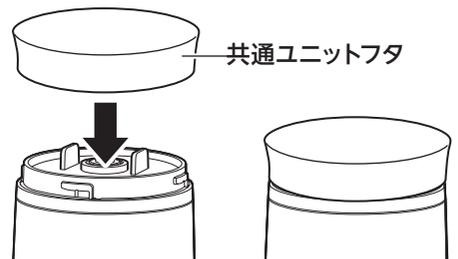
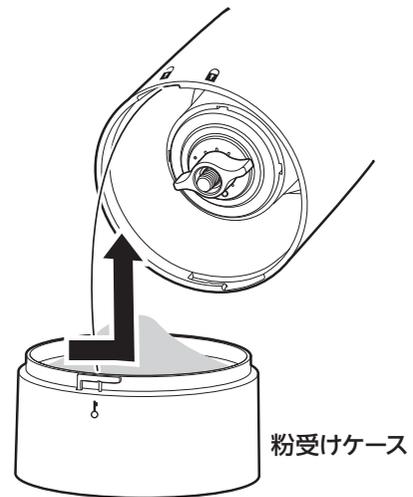
- 粒度の調節をするときは、必ず電源プラグを抜いて、本体からミルユニットをはずす。
- 本体にミルユニットを取り付けるまで、電源プラグをコンセントに差し込まない。

6. 挽き終わったら、粉受けケースをはずしてコーヒー粉を取り出す

続けて挽くときは、ミルユニットに残っている豆や粉を必ず捨ててください。

7. 使用後はお手入れをする

お手入れしたあと、コーヒーミルに本体を取り付けておかない場合は、共通ユニットフタを取り付けてください。



お手入れと保存

警告 お手入れのときは、必ずコンセントから電源プラグを抜く。
感電・けが・やけどの原因になります。

注意 お手入れのときは、シンナー・ベンジン・アルコール・磨き粉・金属たわし・住宅用洗剤などを使わない。
変形、変色の原因になります。

本体・氷押さえユニット《水洗い禁止》

警告 本体は水洗いしない、水につけない。
感電・火災・故障の原因になります。

注意 スパイクは手でふれない。水没させない。

1. 本体から氷ケースをはずす

平らな場所に置き、片手で氷ケースをしっかり押さえながら、もう一方の手で本体を右(時計方向)へ回し、本体の印を氷ケースの印に合わせて、本体を引き上げ氷ケースからはずしてください。

2. 本体から氷押さえユニットをはずす

注意 氷押さえユニットは、引き抜くようにして取りはずす。
回すと軸接続部(オス)が取れてしまう原因になります。

3. 本体と氷押さえユニットを乾いた布で拭く

完全に乾いた状態で保存してください。落ちない汚れは布に中性洗剤を湿らせて、よくしぼってから軽く拭き取ってください。

本体のほか、氷押さえユニットは水洗いしないでください。氷押さえユニット上部は水没させないでください。

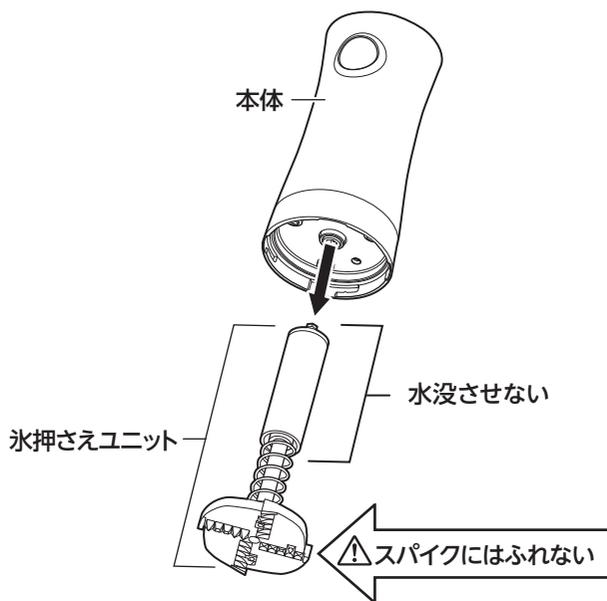
氷ケースユニット・刃ユニット・スタンド・ミルクキャップ・粉受けケース・共通ユニットフタ 《水洗い可能》

1. 刃の汚れや水分を落とし、完全に乾燥させる

- 氷ケースユニット・刃ユニット・スタンド・ミルクキャップ・粉受けケース・共通ユニットフタそれぞれを水洗いをしてください。
- 汚れがひどい場合は、ぬるま湯でうすめた中性洗剤を使用して必ずきれいに洗ってください。

2. 乾かしたあとにサビ防止のために刃に食用油を塗って保存する

サビ防止のため、刃に食用油を塗っておきます。



注意

- 刃は手でふれない。
お手入れは付属のブラシを使用してください。
- 刃の固定ネジをゆるめたり、取りはずしたりしない。
けがの原因になります。
- 刃ユニットを取りはずすときは、刃にふれないように十分注意する。

ミルユニット 《水洗い可能》

1. ミルユニット分解のしかた

軸が空回りするので、ミルケースを本体に取り付けた状態で分解をしてください。

粒度調節ダイヤルを左(反時計方向)に回して取りはずすと、それぞれ内部を取り出すことができます。

- ・真上に取り出すことは難しいので、粒度調節ダイヤルをはずす直前に傾けると取り出しやすくなります。
- ・バネが飛んでしまうので、慎重に部品を取りはずし、紛失しないように注意してください。

2. それぞれを水洗いする

ミルユニット内部と刃のパーツには、油脂分が付着しているので、中性洗剤で洗い、それぞれ十分にすすぎをして完全に乾燥させてください。

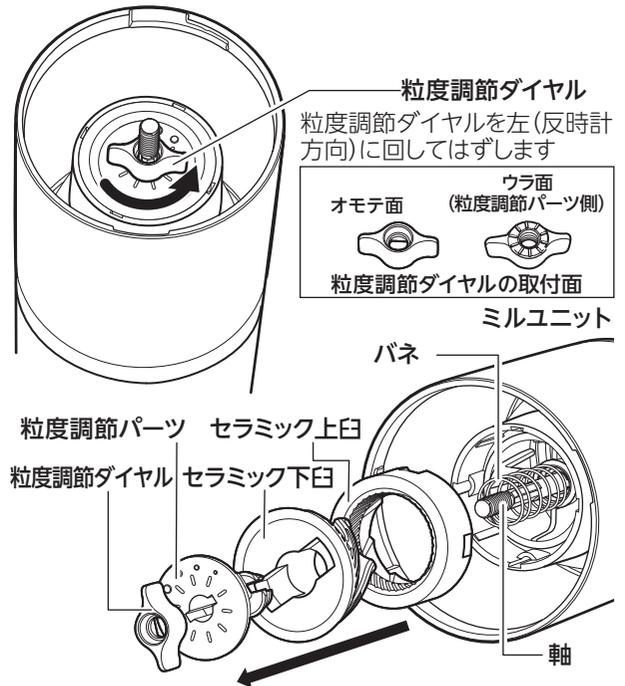
※ 漂白剤は使用しないでください。

3. ミルケース組み立てのしかた

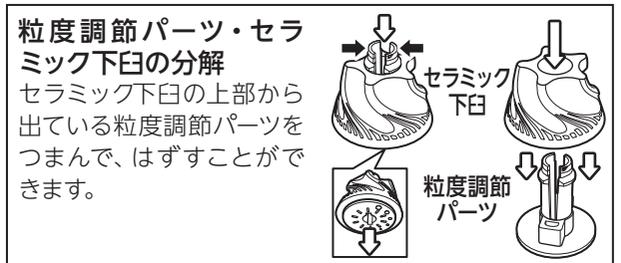
粒度調節ダイヤルが空回りするので、ミルケースを本体に取り付けてから組み立てをしてください。

ミルケースの軸にバネ・セラミック上臼・セラミック下臼・粒度調節パーツ・粒度調節ダイヤルの順に取り付けます。

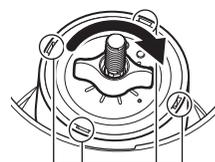
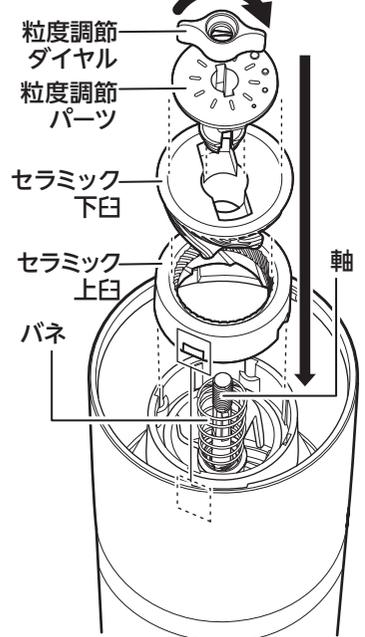
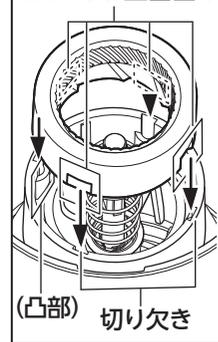
- ・セラミック上臼については、ミルユニットの切り欠きとセラミック上臼の周囲にある凹みを合わせるように取り付けてください。
- ・粒度調節ダイヤルにはオモテ・ウラがあり、2つの突起のある側がウラ(粒度調節パーツ側)になります。



粒度調節ダイヤルを軸からはずす前に倒すことで、それぞれはずしやすくなります。



セラミック上臼凹み



切り欠き

<p>注意</p>	<p>セラミック臼を硬いものにぶついたり、落としたりしないように注意する。 セラミック臼が欠けたり、割れたりする原因になり、挽くことができなくなったり、挽き具合が悪くなります。</p>
------------------	--

長期保存のしかた

コーヒーミル・かき氷器どちらかに本体を取り付け、取り付けていないものには、**共通ユニットフタ**を取り付けておいてください。内部にホコリなどが入るのを防ぎます。

長期間ご使用にならない場合は、サビやカビが発生しますので必ず完全に乾いてから、ホコリが入らないようにビニール袋などに入れたうえで箱へ入れ、湿気のない場所へ保存をしてください。

修理・サービスを依頼する前に

⚠警告 修理技術者以外の方は分解したり修理をしない。

「故障かな?」と思ったときには次の点をお調べください。

症状	主な原因	処置
かき氷器		
電源ボタンを押しても作動しない	氷の量が多すぎる	氷の量を氷入れ位置より下に調節する
	電源プラグが抜けている	電源プラグをしっかり差し込む
	氷ケースが正しく本体に取り付けられていない	氷ケースを正しく本体に取り付ける ※本体のみでは作動しません
音はするが氷が削れない	氷が氷ケースに入っていない	氷を氷ケースに入れる
	氷ケース内に削れずに残った氷がある	氷を入れ替える
	インナーアダプタ、インナーリングを氷ケース内に取り付けていない	氷ケース内にインナーアダプタ、インナーリングを取り付ける
	刃を出しすぎて氷がロックしている 氷押さえ板が空回りしている	電源ボタンを離して再度押してみる それでも直らない場合は本体から氷ケースをはずし ・氷ケースを振って氷を動かす ・氷を1個減らす ・刃の調節ネジを回して調節する 氷ケースを本体に取り付けて電源ボタンを押してみる
氷を削るスピードが遅い	氷が少なくなったり、刃に当たる面が、なめらかになっている	氷ケースを本体に取り付けて電源ボタンを押してみる
途中で止まってしまう	氷がロックしている	
	長時間使用している	使用をやめて、本体を30分以上休ませる
本体が熱い	長時間使用している	使用をやめて、本体を30分以上休ませる
氷ケースを本体に取り付けることができない	氷の量が多すぎる	氷の量を氷入れ位置より下に調節する
	氷の表面が斜めになっている	氷の表面をできるだけ平らにする
	インナーアダプタ、インナーリングの向きが正しくない	上下の方向を確認し、正しく氷ケースを本体に取り付ける
コーヒーミル		
電源ボタンを押しても作動しない	コーヒー豆の量が多すぎる	コーヒー豆の量を少なく調節する
	電源プラグが抜けている	電源プラグをしっかり差し込む
	ミルケースが正しく本体に取り付けられていない	ミルケースを正しく本体に取り付ける ※本体のみでは作動しません
	ミルケース内の臼などが正しく取り付けられていない	ミルケース内を一度分解して組み立て直す
	コーヒー豆以外の食材が入っている	焙煎したコーヒー豆以外を使用しない
途中で止まってしまう	長時間使用している	使用をやめて、本体を1時間以上休ませる
本体が熱い	長時間使用している	使用をやめて、本体を1時間以上休ませる

症状	主な原因	処置
音はするがコーヒー豆が挽くことができない	コーヒー豆がミルケースに入っていない	コーヒー豆をミルケースに入れる
	ミルケース内部に挽けずに残ったコーヒー豆がある	コーヒー豆を入れ替える（挽くことができないコーヒー豆を捨てる）
	正しくセラミック臼を取り付けていない	ミルケース内部を一度分解して組み立て直す
挽ける量が少なくなった	ミルケース内部の部品を正しく取り付けていない	ミルケース内部を一度分解して組み立て直す
	コーヒー豆がミルケースに入っていない	コーヒー豆をミルケースに入れる
コーヒー豆がつまる	油分の多い豆を細かい設定で挽いている	粗い設定で挽いてみる
お手入れするとき粒度調節ダイヤルが空回りする	軸が固定されていない	ミルケースを本体に取り付けてから粒度調節ダイヤルを回す

長年ご使用の製品はよく点検を

このような症状はありませんか？

- 電源コードや電源プラグが異常に熱い。
- コードを動かすと、通電したり、しなかったりする。
- こげ臭い匂いがする。
- その他の異常・故障がある。



このような症状の時は、事故防止のため、すぐに使用を中止し、コンセントから電源プラグを抜いて、必ず販売店またはドウシシャお客様相談室にご相談ください。

お問い合わせ

お客様サポート

<https://www.do-cooking.com/support/>



【電話でのお問い合わせ】

このたびは、弊社製品をお買い上げいただきまして、まことにありがとうございます。品質には万全を期しておりますが、万一不具合や、お気付きの点がございましたら、ご使用にならずに、弊社お客様相談室までご連絡ください。

株式会社 ドウシシャ www.doshisha.co.jp
お客様相談室 0120-104-481

【受付時間 9:00～17:00 祝日以外の月～金】

※製品、型番をご確認の上、お電話をいただきますようお願い致します。
※お電話をいただいた際にお話しいただく情報は、お客様へのアフターサービスにおいて利用させていただきますので、ご了承ください。

製品情報に関するお問い合わせ

よくあるご質問

製品・パーツ購入のご案内

※製品によっては、パーツ販売をしておりません。

お客様の声(アンケート)